

しずおか平和の風

No.65
2020年9月25日
発行
静岡市
平和委員会
静岡市葵区鷹匠
1-5-8
TEL 253-1854
FAX 252-0785
メール
peacecity1854@gmail.com
ホームページ
https://shizuoka-shi-heiwa-iinkai.jimdofree.com



安倍退陣！改憲発議反対の声をますます大きく

安倍首相は8月28日、突然の退陣表明をしました。原因は健康の問題だということですが、より本質的には安倍政治の行き詰まりにあることは明らかです。かねてから主張していた9条改憲を実現することなく、退陣せざるを得ませんでした。

その後、連絡会の打ち合わせを行いました。8組織から10人が参加、安倍首相の退陣にともなう今後の運動の進め方について話し合いました。そして、9条改憲と敵基地攻撃能力の保有、この二つを阻止することを目標に、毎月9日と29日の「9の日行動」と、19日の「戦争法の廃止を求めるオール静岡アクション」の行動に積極的に取り組もうということを確認しました。

「安倍9条改憲NO！改憲発議に反対する全国緊急署名」の署名用紙については、当面これだけでいいというこ

とになりました。前首相の名前が「安倍9条改憲NO！」と入っていますが、新政権が目指すものも何ら変わるものではなく、まさに「安倍9条改憲」そのものだからです。そのことを説明しながら大いに広げたいと思います。



訴えに応じて署名する人(9月9日青葉公園)

新首相は、安倍政治をそっくり引き継ぐと言っています。その中には当然9条改憲も含まれており、さらに「敵基地攻撃能力の保有」問題が加わっています。

9条連絡会 9の日行動で奮闘

当面、現行の署名用紙で署名行動

9月9日、静岡市平和委員会も参加する「静岡市憲法9条の会連絡会」は、青葉公園で街頭宣伝署名活動を行いました。

総裁選と歯がゆい思い



毎年八月は終戦に伴う特集番組がNHKや民放のテレビやラジオで流される。ナチスドイツの近隣各国への侵略と破壊。ユダヤ人狩りと収容所への強制搬送、ガス室での虐殺など、まともに見れないような映像が流されていた。日本の映像では真珠湾攻撃や外地への出兵場面、沖縄での激戦模様、B29爆撃機による本土空襲、広島・長崎への原爆投下などなど。

従軍して生き延びた元兵士のつらかった経験、大空襲の火の粉の中を必死に逃げたお年寄りの話。NHKラジオ深夜便でも特集が組まれていて、孤児となり親戚に預けられ、その家の子供たちに、よそ者と石を投げられ虐められた女性の辛かった体験など。苦しい時代を生き抜いてきた話を胸が苦しくなる思いで聞いていた。そうした体験者が一様に言っていたのは「絶対戦争はダメ！」「二度と戦争は起させない」ことだった。

すでに九月に入っている。総理大臣在任中に憲法改正をと執念を燃やしていた安倍さんが体調不良で辞任を表明、次期自民党総裁をめぐる醜い権力争いが始まっている。

誰が総理になっても構わないが「二度と戦争はダメ」の声を馬耳東風で聞き流す者が総理の椅子に座ることを、阻止できない歯がゆさが湧いてくる。丹羽 巖

らくの間は「請願事項」の説明をしながら現在の用紙をお使いください。「集まった署名は責任をもってお願いします」のことです。(編集部)



▽8月29日に安倍首相の退陣表明がされてから、新聞もテレビも次期首相が誰になるかの不毛な話題一色になり、世論調査では安倍政権を評価する人が71%と目を疑う数字が出ている。安保法制強行に加え、モリカケ・サクラ・黒川と政治を私物化する政治に飽き飽きしていたのではないのか？そんな虚しさを感じながら、でも私達のやるべき仕事は「民主主義と平和を守りぬくこと」と腹をくくりなおしている。▽8月9日、長崎の日に新婦人静岡支部は、核兵器廃絶署名の目標7000筆を達成した。ちょうど1年前、NPT再検討会議(ニューヨーク)に参加したいと常任委員会で伝えた時、先輩の常任委員が「手ぶらでは行かせられない。7000筆の署名目標を達成して、それを持って行っとくれ」と言われた。その頃まだ3600筆位だったと思う。▽できるかなあと半信半疑で、とにかく行動に踏み出した。静岡支部では、今までも街頭署名をやっていたし、月に一度の丸子不動尊でも署名行動をしていた。それだけでは、とても達成できないと、毎

週土曜日の昼に若者が多いTOKYU前で署名行動を新婦人独自で始めた。▽もちろん、知人友人へのお手紙作戦や教会訪問も取り組んだが、一番力を発揮したのが若者向けの署名活動だった。信号が赤になると皆立ち止まるので、対話になりやすい。中高生も、おしゃやかな若い人達とも対話ができた。広島基町高校の生徒さんが描いた「ヒロシマ」の絵も数枚展示すると関心を示してくれた。▽「私達は残り少ない身だけど、若いあなた達の未来に核兵器は要らないと思う。」と語りかけると、真剣に聞いてくれ、とまどいながらも署名してくれました。この署名活動で、私達は元気と勇気をもらえた。1時間で、1人20筆から30筆取れる事が多く、少しずつ目標に近づいてきた。▽コロナでやむを得ない自粛期間があったが、7月から再開し、8月9日に目標を達成。現在7280筆まで集める事ができた。私達は微力だが、無力ではない。核兵器のない平和な世界をめざすと言う当たり前の願いを集めつなげていく仕事をこつこつ続けていきたい。

署名の力 ~吉澤 はつ江~

署名の力 ~吉澤 はつ江~

安倍首相の退陣に思う

望月 金一さん

「安倍首相の退陣に思う」と題して、お三人の方に寄稿していただきました。

大牧 正孝さん

安倍首相が持病の「潰瘍性大腸炎」の悪化を理由に退陣した。持病の悪化は表向きの理由で本音のところは、モリカケ問題に始まり、桜を見る会、河井夫妻の選挙買収事件など先送りされた問題が山積し、体調が悪化、追いつめられての退陣と言える。日本を戦争ができる国にするため、改憲をめざし、戦争法などの悪法を強行、アベノミクスで貧富の格差を拡大するなどの悪政を重ねてきた安倍政治が終わったことには、軽く乾杯。しかし、自民党政治が終わったわけではなく、新首相による新たな形での悪政が継続することは目に見えている。

(原水協事務局長)

海野 順二さん

「悪夢」の7年8カ月
第二次安倍内閣がようやく終わる。8月24日には「連続」

平和の本の紹介

格差と民主主義

ロバート・B・ライシュ (著)

今、日本は自民党総裁選の真っ最中。アメリカも大統領選中です。現今のアメリカをどう見るかだけでなく安倍政治、アベノミクスを知るに最適な本です。著者のライシュ氏はアメリカのクリントン政権の労働長官を務めた方ですので新自由主義の理論、政治、経済、社会などをどう捉え、その課題をどう解決するか一処方箋が、明快に示されています。

一部を紹介すると「逆進主義者たちの分断制圧戦略」に“「ゼロサムゲーム」という幻想”“公務員を悪者にする”“最高裁を制圧せよ”とあり、また「経済をめぐる10の嘘」に“法人税を下げれば、企業は雇用を創出し景気も活性化する”“社会保障制度はねずみ講だ”とあります。

その中で心に残ったのは「怒りを乗り越えて私たちが・・・行動を起こすには」の一つに「^{まゆ}繭のような、居心地の良い世界から抜け出せ」とあり、もっと考えや、意見の異なる人と勇気をだして積極的に接しなさい、と説いています。

ご承知のように私たちの組織の課題として“若い方”への継承があります。これはその一つの解答と激励のようにも思われました。

富田家一郎

在職日数が二千七百九十八日を超え史上最長を記録したばかり。しかし、彼の行ったことは現行の憲法を無視して軍事力で他国に対抗しようとする極めて時代錯誤の政策であった。国内的にはそれを推し進める方策として特定秘密保護法や「共謀罪」の趣旨を含む改正組織犯罪処罰法を強引に成立させ、対外的には歴代内閣が違憲としてきた「集団的自衛権の行使」を閣議決定だけで容認し、「戦争法」すら強引に成立させた。いつアメリカ力の侵略戦争に巻き込まれるか分からない状況を作り出した。そして、アベノミクスの名の下に国債を大量に発行し、さらには年金財源をも使って株価維持を行った。結果国債は一千兆円を超えた。「悪夢」に他ならない。

8月28日、安倍首相が病気を理由に辞任を発表した。マスコミでは病氣辞任を世間の人々を通じて美化するようなニュースを流している。私には今取り組んでいることが思うようにいかなくて逃げたような気がしてならない。安倍政権が行った暴走政治、国政の私物化など目隠しをして済ませようとしている。総裁指名選挙情報と自民党の宣伝、次に行われる衆議院の選挙活動にマスコミは国民の目を欺きニュースを流している。

◆大バツハについて。彼の洋音楽史上の巨人を一回だけでは語れない。彼は「小川」ではなくて「広大な海」だと評した音楽史家がいた。膨大な数のオルガン曲、器楽曲、合唱曲を作曲したがオペラを遂に書けなかった。死ぬまでプロテスタントの教会音楽家であった。◆「静岡クリスチャンクワイア」、次いで「沼津コールアカデミー」「磐田オラトリオ研究会」に入っている。◆「コロナパンデミック」がなければ今年の7月に東

遅いスタートだ。現在は浜松と東京の「バツハ研究会合唱団」と「佐々木バツハセミナー」、バツハカンマーコーア横浜」等彼のモテットやカンタータ、ミサ曲そして受難曲を歌ってきた。日本ではバツハはヘンデルよりも人気があるがきちんと歌うのはとっても難しい。◆バツハは300曲余のカンタータを作曲したが現在残っているのは200曲余のみ。東京芸大出身のプロ歌手と鈴木雅明指揮する「バツハコレグウムジャパン」によるカンタータ全曲シリーズが終了した。その演奏会を聴きに東京まで何回か足を運んだ。静岡出身の太刀川昭氏が過去に在籍、テノールの石川弘人が現メンバーで歌っている。◆「コロナパンデミック」がなければ今年の7月に東京で「クリスマスオラトリオ」を。次いで来年2月に浜松で大曲(3時間かかり二重合唱を含む合唱音楽の集大成のような)「口短調ミサ」を歌える予定だった。終曲ではDona nobis pacem「この地上と我らに平和を与えてください」と歌う。宗教戦争を含め戦乱が絶えなかったヨーロッパで平和を求める壮大な願い、叫びがある。僕はドイツ、ライプツィヒのトーマス教会での「国際バツハフェスト」でこれを歌った。コロナ禍で演奏会が中止になり貴重な機会を失って人生終末期の僕には残念、残酷。残り時間は少ない。事情が許せば世界の平和への祈りを込めてまた歌いたい。



平和の動き 9～10月



- 9月29日(火) 9の日行動 12:00～青葉前
- 10月9日(金) 9の日行動 12:00～青葉前
- 10月19日(木) オールしずおかアクション 17:30～青葉前
- 10月29日(土) 9の日行動 12:00～青葉前